施策評価表 （平成28年度実施事業対象） （作成日：平成29年 7月 8日）

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像（政策）	番号	7	名称	快適な生活を育むまち		
施策	番号	8	名称	人と自然が共生できる地域づくり		
主担当部	魅力創造部		主担当課	世界遺産・文化資産活用課	部長名	山崎 貴浩
関係部	魅力創造部		関係課	産業振興課		

2. 施策の基本方針（第3次総合計画の基本方針をもとに記入する）

この施策の目的	市民が自然と触れ合うことを楽しみ、生物多様性の保全について考え、保全しながら生活できるまちを目指します。そのために、NPO・ボランティア団体等と連携しながら、里山環境や水辺環境等の保全及び活用を進め、市民に自然・環境、生物多様性に関する情報を提供し、社会教育の機会として、展示や講座、観察教室等のイベントを行ないます。

3. 施策の現状分析（第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する）

	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
この施策の概況	子どもたちを中心とした地域住民が安心・安全で身近に自然に触れあうことができる環境づくりが求められています。そのために、里地・里山を整備し、飛鳥川など水辺環境の保全、昆虫や野生生物などの生態系について学べる機会を充実する取り組みをボランティア団体等と協働で進める。	地球温暖化やそれに伴う自然災害が地球規模で多発し、自然環境が大きく変化し、子どもたちを取り巻く自然が減少していく中、ライフスタイルも多様化し、子どもたちが自然から離れていく傾向にあります。そのため、多様な生き物が生息している里地・里山や水辺等の環境の保全と活用を進め、同時に教育普及活動の促進が必要です。
これまでの成果	ボランティア団体の協力により、昆虫館周辺の里地・里山の整備及び、昆虫や植物等の生物相調査を継続して行なっている。飛鳥川や寺川支流等の河川では、地元の小学校・中学校の生徒や関係課の依頼等により環境調査及び観察教室を行っている。	

4. 指標及びコストの推移

		名称及び単位等	27年度	28年度		29年度（総計目標年度）		備考欄
			実績	目標	実績	目標		
指標の推移	施策指標①（成果指標）	観察会や観察教室、イベント等の開催回数（回）	50	35	56	35		
	施策指標②（成果指標）	出前講座の回数（回）	24	26	38	26		
	施策指標③（成果指標）	昆虫館の利用者（人）	81,771	74,000	94,702	75,000		
	施策指標④（成果指標）							
	施策指標⑤（成果指標）							
コストの推移（単位：千円）		財源の内訳	決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）（a）	37,239	41,418	37,559	46,729		
	歳入（b）	受益者負担額	992	1,002	998	1,002		
		受益者負担額以外の歳入（補助金等）	3,368	3,897	3,468	144		
		（a）－（b）＝一般財源	32,879	36,519	33,093	45,583		
	正職員	従事者数（単位：人）	5.95	5.95	6.85	7.30		
		人件費（c）	34,528	33,957	39,093	41,661		
		トータルコスト（a）＋（c）	71,767	75,375	76,652	88,390		

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	2	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	昆虫館周辺の里地・里山において、ボランティア団体と協働で整備活動や昆虫・植物等の生物相調査を継続的に行い、観察会においても活用している。地元の小学生や中学生との水辺の生き物調査や出前講座等を通じて地域との連携が図られ、周辺環境や保全活動が進み、自然体験や散策等に活用できるようになり、人と自然が共生できる地域づくりに向けての取り組みが進んでいる。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	自然や環境、生物多様性の保全活動から様々な生物が暮らせる環境づくりが進められている中で、昆虫や野生生物等に関する特別展や企画展等の展示事業や生態系の保全のための生物調査、観察会等を実施することで、自然環境や生態系の学習、生物多様性等の情報発信、地域生涯学習を行う拠点としての貢献度は高い。				

6. 施策の課題

この施策の課題	大和三山をはじめ鎮守の森や飛鳥川、藤原宮跡等の多様な生き物が生息している自然豊かな環境ですが、まだ生物調査が十分に行われていないところもあり、地域協議会やボランティア団体、中学校・高等学校の科学部の生徒と協働で生物調査を進め、多様性の高い自然や環境、生物多様性を保全するしくみづくりが必要である。

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	2	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	自然豊かな里地・里山を維持するためには整備・管理を続けていかなければ、生態系が良い状態に維持できないため、地域協議会やボランティア団体と協働で整備・管理を継続していく。また、地元の小学生・中学生や学校との連携を図り、里地・里山や水辺の生物調査を実施し、自然や環境、生物多様性の保全をしながら、情報の集積・発信の拠点としての機能の充実を図り、人と自然が共生できる地域づくりを進めていく。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性 （それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	人と自然が共生できる地域づくりを進めていくには、自然豊かな里地・里山の保全・整備等の里山林機能回復整備事業が不可欠であり、そして地域の自然についての生態系及び動植物の分布調査と研究事業や資料・標本類の収集、収蔵保管等の資料等管理事業、昆虫をはじめ生き物の生態飼育業務を行う基礎的な研究業務が必要である。また、その成果を企画展や来館者、学校での出前授業等の環境教育普及事業で還元することで、多角的に生物多様性の重要性について啓発しながら市民の意識を高めていくことができる。自然や環境、生物多様性の情報の集積・発信拠点としての機能を充実させるため、各事務事業を効果的に展開し、見直しながら継続していく。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説
・貢献度－事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度（重要度）を絶対評価で示しています。
（a：不可欠かつ施策の中核をなす事業、b：不可欠な事業、c：不可欠ではないが実施が望ましい事業、d：あまり有効ではない事業）
・方向性－事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
（拡大する、見直しながら続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する）
・優先度（ソフト事業（任意）のみ）－施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
（優先度が高い順に　A、B、C、D）

この施策に関連する事務事業評価の内容（評価内容の転記）					施策評価			戦略	大綱
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH28決算額		貢献度	方向性	優先度（ソフト任意）		
1	産業振興課 里山林機能回復整備事業 （　ソフト（任意）　）	奈良県より補助を受けて、里山林の整備を希望する所有者と整備活動を行う団体とを森林バンクに登録する事務を行い、双方合意の上で整備協定を手配し、里山林の機能回復を図る。 林業の不振から適切な管理（施業）が行われていない森林を間伐し、森林の公益的機能の維持増進を図る。	2	現状のまま継続 3,217 （千円）	b	見直しながら続ける	C		
2	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館) 環境教育普及事業 （　ソフト（任意）　）	自然環境や生物多様性について理解を深めるため、日々の調査の成果を基に野外観察会や講演会等のイベントを実施する。特別展や企画展を開催し、調査研究のデータや標本等を展示し生涯学習に虫いっぱいの里山を目指しボランティアグループと協力しながら情報発信を行う。様々な世代が里山づくりに長く関わることができる仕組みをつくる。	2	現状のまま継続 1,180 （千円）	a	見直しながら続ける	A		
3	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館) 資料等管理事業 （内部管理・維持管理　）	博物館業務のひとつとして、生態系の理解や保全のための生物調査を行い採集した動植物の資料収集・収蔵業務があり重要である。貴重な資料を適正に分類保管し、収蔵資料の情報発信を行う。	2	現状のまま継続 338 （千円）	b	見直しながら続ける			
4	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館) 生態系及び動植物の分布調査と研究事業 （内部管理・維持管理　）	市内の大和三山やため池、用水路等の動植物が生息しているフィールドを市民やボランティア団体、小学校等と連携しながら自然環境や生態系の保全、緑の基本計画、農地の多面的機能に配慮し生物調査を行う。調査等のデータを蓄積し、展示を行うことで生態系の理解や保全、自然環境や生態系の学習、情報の収集・発信を行う。また、万葉集で謳われている植物を考慮した整備を協働で進める。	2	現状のまま継続 4,662 （千円）	b	見直しながら続ける			
5	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館) 生態飼育業務 （内部管理・維持管理　）	生態系の調査・採集等を行い、採集した昆虫に適した環境をつくり餌も工夫するなどして与え、飼育方法についてもマニュアル化し、最も効率的な飼育方法を見つけ、飼育方法を確立させる。	2	現状のまま継続 26,300 （千円）	b	見直しながら続ける			
6	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館) 生物多様性保全活動推進事業 （　ソフト（任意）　）	生物多様性地域戦略を策定するため、策定委員会及び実務担当部会等を開催し、啓発活動として写真展やシンポジウムを開催し、生物多様性飛鳥地域戦略を策定した。	1	拡大する 1,862 （千円）	a	見直しながら続ける	B	○	

事務事業評価表（平成28年度実施事業対象）

（作成日：平成29年　6月　　6日）

事業の種類を選択してください。⇒　（　ソフト（任意）　）　事業

PLAN 計画

事務事業名	里山林機能回復整備事業					
担当部名	魅力創造部	担当課名	産業振興課	課長名	北野　哲也	
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち			
	施　　策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
総合戦略の位置付け	基本目標					
	基本的方向					
行革大綱の位置付け	重点項目					
	項目					
	改革名					
予算事業名	農業振興事業費					
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成	年度

対象	里山林整備団体・森林組合	事業の内容説明	奈良県より補助を受けて、里山林の整備を希望する所有者と整備活動を行う団体とを森林バンクに登録する事務を行い、双方合意の上で整備協定を手配し、里山林の機能回復を図る。 林業の不振から適切な管理（施業）が行われていない森林を間伐し、森林の公益的機能の維持増進を図る。
事業の目的	住民の自主的な参加等により、里山林の保全・整備及び活用の促進を図る。		

妥当性評価

市の関与の必要性を評価してください

なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業
		2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）
	説明	県費補助事業であり、補助事業者は市町村である必要がある。
やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい　2 やや大きい　3 克服できる範囲内　4 ほとんど無い
	説明	整備活動を行うボランティア団体等へ補助及び委託ができない。

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	27年度	28年度		29年度（総計目標）	30年度	31年度
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	機能回復面積（ha）	7.86	9.91	8.99	1.66	1.66	1.66
活動指標①	里山林整備団体	2	2	2	2	2	2
活動指標②							

コストの推移（単位：千円）		財源の内訳	決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出（直接事業費）（a）		3,233	3,848	3,217	115
	歳入（b）	受益者負担額				
		受益者負担額以外の歳入（補助金等）	3,368	3,897	3,468	144
	（a）－（b）＝一般財源		−135	−49	−251	−29
	正職員	従事者数（単位：人）	0.20	0.20	0.20	0.20
		人件費（c）	1,161	1,141	1,141	1,141
	トータルコスト（a）＋（c）		4,394	4,989	4,358	1,256
	単位当たりコスト	計算式等 （　　）／（　　）				

備考	

<table>
<tr><td rowspan="6">CHECK
評価</td><td rowspan="4">有効性評価
現時点での有効性を評価してください</td><td rowspan="2">現時点での成果について</td><td>3</td><td>1 十分な成果が出ている</td><td>2 概ね十分な成果が出ている</td><td>3 現時点では十分な成果が出ていない</td><td>4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="4">整備活動は必要であるが、活動範囲が限られている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">上位施策への貢献度はどうか</td><td>2</td><td>1 高い</td><td>2 やや高い</td><td>3 やや低い</td><td>4 低い</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="4">自然との共生を図る上では必要である。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">効率性評価
内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください</td><td>1</td><td>1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない</td><td>2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある</td><td>3 効率性が低く、改善が必要</td><td>4 効率性が低いが、改善が見込めない</td></tr>
<tr><td>説明</td><td colspan="4">人件費を除き100%県費補助対象であるため、コスト削減の余地はない。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ACTION
修正行動</td><td colspan="2">この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。</td><td colspan="6">県、整備団体との連携をさらに密に行い、今後も継続していく。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください</td><td rowspan="2">2</td><td>1 拡大する</td><td>2 現状のまま継続</td><td>3 縮小する</td><td rowspan="2">課内優先度</td><td rowspan="2">B</td></tr>
<tr><td>4 廃止又は休止する</td><td>5 完了する</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">説明</td><td colspan="6">自然環境を保全するため、里山林の適正な整備・育成により、機能回復を図る。</td></tr>
</table>

事務事業評価表（平成28年度実施事業対象）

（作成日：平成29年　6月　2日）

事業の種類を選択してください。⇒　（　ソフト（任意）　）　事業

PLAN 計画

事務事業名	環境教育普及事業					
担当部名	魅力創造部	担当課名	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館)	課長名	岸本　裕史	
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち			
	施　　策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
総合戦略の位置付け	基本目標					
	基本的方向					
行革大綱の位置付け	重点項目					
	項目					
	改革名					
予算事業名	昆虫館管理運営費					
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	年度

対象	市民、ボランティア、小学校	事業の内容説明	自然環境や生物多様性について理解を深めるため、日々の調査の成果を基に野外観察会や講演会等のイベントを実施する。特別展や企画展を開催し、調査研究のデータや標本等を展示し生涯学習に虫いっぱいの里山を目指しボランティアグループと協力しながら情報発信を行う。様々な世代が里山づくりに長く関わることができる仕組みをつくる。
事業の目的	自然環境が減少していく中で、子どもたちが自然から離れていく傾向にあります。そのため里山や水辺等の環境保全と活用を進め、命や自然の大切さを感じたり学べる拠点としてイベント等を実施し、環境教育の普及や学習機会の充実を図る。		

妥当性評価

市の関与の必要性を評価してください

なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）
	説明	自然環境が減小していく中で、博物館が中心として取り組む自然環境教育に対しての期待は大きく、命や自然の大切さを感じ、学べる拠点として行って行く上で、社会的役割としての責務がある。市が関与することにより、学校現場との連携がとりやすく学べる拠点としても効果も大きい。
やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい　2 やや大きい　3 克服できる範囲内　4 ほとんど無い
	説明	小学校施設との連携が困難となり、理科離れや自然環境に対し無関心が拡大し、貴重な環境教育等の学習の場が失われる。

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	27年度	28年度		29年度（総計目標）	30年度	31年度
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	講座受講者数（人）	1,992	1,700	2,310	1,700	1,700	1,700
活動指標①	観察講座開催回数（回）	50	35	56	35	35	35
活動指標②	特別展・企画展入館者数（人）	71,627	64,000	52,901	64,000	64,000	64,000

コストの推移（単位：千円）			決算	当初予算	決算	当初予算
	財源の内訳					
	歳出（直接事業費）（a）		2,262	1,727	1,180	2,445
	歳入（b）	受益者負担額	10	20	16	20
		受益者負担額以外の歳入（補助金等）	0	0	0	0
	（a）－（b）＝一般財源		2,252	1,707	1,164	2,425
	正職員	従事者数（単位：人）	1.50	1.50	1.70	1.50
		人件費（c）	8,705	8,561	9,702	8,561
	トータルコスト（a）＋（c）		10,967	10,288	10,882	11,006
	単位当たりコスト	計算式等 （トータルコスト）／（活動指標①）	219	294	194	314

備考	市内・市外等の小学校への出前授業を実施し、学校現場との交流と教育普及活動を行った。

CHECK 評価	有効性評価 現時点での有効性を評価してください	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要
			説明	観察会や講演会等を実施することにより、市民との交流やモンシロチョウの飼育教材による学習支援授業により、学校現場との交流を積極的に行っている。			
		上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
			説明	昆虫館の里山がボランティア活動により、整備された自然空間を観察会などで利用し、生涯学習や環境教育の場として提供することで地域との交流や自然との共生を学べる生涯学習の充実を図る。			
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない
			説明	コストの大半は人件費であるため、イベントにはボランティアからの参加を募り協力をしていただき、昆虫館職員数を最小限で対応し、コストダウンしながら対応している。			
ACTION 修正行動	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		観察会や講演会等のイベント・企画運営については、通常業務に加えて限られた人員で運営しなければならないため、イベント開催時になると職員のみでの対応に限界がある。職員の人員配置を考えつつ、ボランティアの方に参加を募りながらイベントの効果が最大限発揮できるようにする。橿原市内の小学校の出前授業には、モンシロチョウの飼育教材や生物多様性に基づく学校のニーズに合った学習支援授業を行うことで、教育普及活動や環境教育に貢献できる。				
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度 D
				4 廃止又は休止する	5 完了する		
			説明	市民参加によるイベントの企画を計画し、学校との連携を続けていく。職員の配置人員を考慮し、ボランティアからの参加を募ることで人件費のコスト軽減を行い、ボランティア活動からの提案も盛り込みながら、体験型事業も企画し参加者の増加を図る。			

事務事業評価表（平成28年度実施事業対象）

（作成日：平成29年　6月　2日）

事業の種類を選択してください。⇒　（　内部管理・維持管理　）　事業

PLAN 計画

事務事業名	資料等管理事業					
担当部名	魅力創造部	担当課名	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館)	課長名	岸本　裕史	
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち			
	施　　策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
総合戦略の位置付け	基本目標					
	基本的方向					
行革大綱の位置付け	重点項目					
	項目					
	改革名					
予算事業名	昆虫館管理運営費					
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	年度

対象	昆虫館	事業の内容説明	博物館業務のひとつとして、生態系の理解や保全のための生物調査を行い採集した動植物の資料収集・収蔵業務があり重要である。貴重な資料を適正に分類保管し、収蔵資料の情報発信を行う。
事業の目的	昆虫資料・標本の収集と収蔵保管の充実を図り、収蔵標本の情報発信を行う。		

妥当性評価

市の関与の必要性を評価してください

なぜ市が関与しているのか		1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業			
		2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）			
	説明				
やめた場合の影響は		1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い
	説明				

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	27年度	28年度		29年度（総計目標）	30年度	31年度
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	―	0	0	0	0	0	0
活動指標①	収蔵書籍数（冊）	101,600	101,800	101,650	101,850	102,050	102,250
活動指標②	標本数（匹）	49,800	49,900	49,950	50,050	50,150	50,250

コストの推移（単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出（直接事業費）（a）		338	339	338	339
	歳入（b）	受益者負担額	0	0	0	0
		受益者負担額以外の歳入（補助金等）	0	0	0	0
	（a）－（b）＝一般財源		338	339	338	339
	正職員	従事者数（単位：人）	0.75	0.75	0.60	0.60
		人件費（c）	4,352	4,280	3,424	3,424
	トータルコスト（a）＋（c）		4,690	4,619	3,762	3,763
	単位当たりコスト	計算式等 （トータルコスト）／（活動指標②）	0.090	0.090	0.080	0.080

備考	

CHECK 評価	有効性評価 現時点での有効性を評価してください	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要
			説明	市が関与していることで一般市民より貴重な標本資料の提供があり、寄贈された貴重な標本などは特別展や企画展等の展示に活用し、博物館の責務として公開している。自然や生き物についての啓発や情報提供をしている。			
		上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
			説明	今では手に入りにくい標本の展示や地域特有の標本の展示をすることで、自然環境の変動や生物の多様性に関することについて学ぶことができ、人と自然が共生できるまちづくりについて理解が高まる。			
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない
			説明	標本を管理している設備等にかかるコストと人件費のため、低減の余地がない。			
ACTION 修正行動	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		収納スペースが確保され、標本の整理や書籍の収蔵のためのスペースが広くなったが、橿原市内の動植物の資料が少ないことから定期的に調査･研究を行い収集を行う。更に、昆虫館情報システムにデータを入力し、有効活用することで、地域の自然環境の変化などについて学ぶことができる。				
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度
				4 廃止又は休止する	5 完了する		
			説明	標本資料は情報の源であり、博物館施設の肝である。リニューアルに伴い収蔵スペースに余裕があるが、標本の整理が遅れている。人員の増員が難しい中、現行の体制で少しづつ整理を進めていく。さらに学校団体への貸出しや出前授業にも有効に活用する。			

事務事業評価表（平成28年度実施事業対象）

（作成日：平成29年　6月　2日）

事業の種類を選択してください。⇒　（　内部管理・維持管理　）　事業

PLAN 計画

事務事業名	生態系及び動植物の分布調査と研究事業					
担当部名	魅力創造部	担当課名	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館)	課長名	岸本　裕史	
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち			
	施　　策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
総合戦略の位置付け	基本目標					
	基本的方向					
行革大綱の位置付け	重点項目					
	項目					
	改革名					
予算事業名						
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	年度

対象	昆虫館および地域住民、ボランティア、小学校	事業の内容説明	市内の大和三山やため池、用水路等の動植物が生息しているフィールドを市民やボランティア団体、小学校等と連携しながら自然環境や生態系の保全、緑の基本計画、農地の多面的機能に配慮し生物調査を行う。調査等のデータを蓄積し、展示を行うことで生態系の理解や保全、自然環境や生態系の学習、情報の収集・発信を行う。また、万葉集で謳われている植物を考慮した整備を協働で進める。
事業の目的	職員や地域住民、ボランティア団体、小学校が協働し、昆虫をはじめとする動物や植物の生態や分布調査及び採集を行い、調査結果等を特別展や企画展、常設展示に反映し、市民（入館者）に還元する。また、動植物の生態や分布や採集した昆虫類の飼育、植物の栽培をとおして技術の向上に努める。		

妥当性評価

市の関与の必要性を評価してください

なぜ市が関与しているのか		1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業
		2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）
	説明	
やめた場合の影響は		1 非常に大きい　2 やや大きい　3 克服できる範囲内　4 ほとんど無い
	説明	

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	27年度	28年度		29年度（総計目標）	30年度	31年度
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	ー	0	0	0	0	0	0
活動指標①	研修会の参加回数（回）	11	9	10	9	9	9
活動指標②	調査回数（回）	12	6	14	6	6	6

コストの推移（単位：千円）	財源の内訳	決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出（直接事業費）（a）	6,715	4,603	4,662	4,526
歳入（b）	受益者負担額	0	0	0	0
	受益者負担額以外の歳入（補助金等）	0	0	0	0
	（a）－（b）＝一般財源	6,715	4,603	4,662	4,526
正職員	従事者数（単位：人）	1.15	1.15	1.00	0.80
	人件費（c）	6,673	6,563	5,707	4,566
	トータルコスト（a）＋（c）	13,388	11,166	10,369	9,092
単位当たりコスト	計算式等 （トータルコスト）／（研修会の参加回数）	1,217	1,241	1,037	1,010

備考	

CHECK 評価	有効性評価 現時点での有効性を評価してください	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要
			説明	ボランティアグループ等と協力を図りながら、昆虫館周辺の雑木林の整備を行い、観察会や生き物調査を実施するとともに、情報発信や啓発を行っている。地元の学校団体や地域と連携をし、河川等の調査を実施した。			
		上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
			説明	飛鳥川流域等の調査を行い、水辺環境に取り組む各種団体や学校等と連携を図り、飛鳥川を中心とした水に親しむ川づくりを協働で進めており貢献度は高い。			
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない
			説明	各種団体や学校等と連携をし、生き物調査や研究を協働で行うことで、調査効率よく進められる。コスト等については、多くの団体に連携を求めることでコスト低減を図る余地はある。			
ACTION 修正行動	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		大和三山をはじめ、市内に点在する鎮守の森、飛鳥川をはじめとする河川、ため池、用水路を含む農地にも多くの生き物が生息していることから、地域住民、ボランティア団体、小学校と連携をし、生き物調査を実施することにより、広範囲でデータが得られる。また、自然環境や生物多様性について、保全や活用を推進することにより住民の関心が広がる。				
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度
				4 廃止又は休止する	5 完了する		
			説明	市内の動植物が生息しているフィールド調査など、予算軽減を考慮するために地域住民やボランティア団体、小学校等と連携を図りながら生き物調査を行う。			

事務事業評価表（平成28年度実施事業対象）

（作成日：平成29年　6月　2日）

事業の種類を選択してください。⇒　（　内部管理・維持管理　）　事業

PLAN 計画

事務事業名	生態飼育業務					
担当部名	魅力創造部	担当課名	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館)	課長名	岸本　裕史	
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち			
	施　　策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
総合戦略の位置付け	基本目標					
	基本的方向					
行革大綱の位置付け	重点項目					
	項目					
	改革名					
予算事業名	昆虫館管理運営費					
事業の開始年度	平成	1	年度	事業の終了予定年度	平成	年度

対象	昆虫館	事業の内容説明	生態系の調査・採集等を行い、採集した昆虫に適した環境をつくり餌も工夫するなどして与え、飼育方法についてもマニュアル化し、最も効率的な飼育方法を見つけ、飼育方法を確立させる。
事業の目的	累代飼育を中心に生態（昆虫の生活している状況）を人工的につくり維持して飼育する。		

妥当性評価

市の関与の必要性を評価してください

なぜ市が関与しているのか		1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業
		2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）
	説明	
やめた場合の影響は		1 非常に大きい　2 やや大きい　3 克服できる範囲内　4 ほとんど無い
	説明	

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	27年度	28年度		29年度（総計目標）	30年度	31年度
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	ー	0	0	0	0	0	0
活動指標①	飼育・展示種類数（種）	106	95	98	95	95	95
活動指標②	年間放蝶数（匹）	10,000	11,000	8,516	11,000	11,000	11,000

コストの推移（単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算
	歳出（直接事業費）（a）		22,855	28,975	26,300	32,302
	歳入（b）	受益者負担額	982	982	982	982
		受益者負担額以外の歳入（補助金等）	0	0	0	0
	（a）－（b）＝一般財源		21,873	27,993	25,318	31,320
	正職員	従事者数（単位：人）	1.25	1.25	1.20	2.10
		人件費（c）	7,254	7,134	6,848	11,985
	トータルコスト（a）＋（c）		30,109	36,109	33,148	44,287
	単位当たりコスト	計算式等 （トータルコスト）／（活動指標①）	284	380	338	466

備考	

CHECK 評価	有効性評価 現時点での有効性を評価してください	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要
			説明	累代飼育している種類の数は安定しており、定期的に生態展示の昆虫や生き物の展示替えを行うことができた。昆虫等に直接ふれあうことができる体験型展示を実施することにより、入館者の満足度が高く、概ね十分な成果が出ている。			
		上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
			説明	いろいろな種類の昆虫を飼育・展示することで生物多様性や生息環境について学習することができ、また、昆虫館周辺をボランティアが中心となり、整備・管理し、フィールドミュージアムに向けて進め、人と自然が共生できる地域づくりを図ることで、貢献度は高い。			
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない
			説明	展示効果を向上させることで、生態展示を拡大し、施策の貢献度を高めるには、より多くの生きた昆虫（種類）が必要である。また、非常勤職員と他館へ積極的に交流を行い、マニュアル化を図ることで飼育技術の向上や、人件費の低減に繋がる。			
ACTION 修正行動	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		累代飼育による生態展示を行っているが、累代飼育を続けると近親交配による病気の発生が多くなるなどの弊害がでてくる。何度も現地で昆虫を採集することは困難であり、採集困難な昆虫は購入あるいは、無償提供を受けている。また、最近では、外国産の昆虫（カブトムシやクワガタムシ）を飼育されている方々からの提供も多く、他の施設に協力を求めることにより、飼育困難な場合の受け入れの連絡態勢を工夫することで、安定した生態展示が期待できる。				
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度
				4 廃止又は休止する	5 完了する		
			説明	情報コーナーやイベントを活用し、生きた昆虫とふれあえる機会を増やす。また、生態展示の昆虫を維持するためには、飼育体制や飼育内容の充実も図る。			

事務事業評価表（平成28年度実施事業対象）

（作成日：平成29年　6月　2日）

事業の種類を選択してください。⇒　（　ソフト（任意）　）　事業

PLAN 計画

事務事業名	生物多様性保全活動推進事業					
担当部名	魅力創造部	担当課名	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館)	課長名	岸本　裕史	
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち			
	施　　策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる			
	基本的方向	④	歴史と風土を活かしたまちづくり			
行革大綱の位置付け	重点項目					
	項目					
	改革名					
予算事業名	昆虫館管理運営費					
事業の開始年度	平成	27	年度	事業の終了予定年度	平成	年度

対象	市民	事業の内容説明	生物多様性地域戦略を策定するため、策定委員会及び実務担当部会等を開催し、啓発活動として写真展やシンポジウムを開催し、生物多様性飛鳥地域戦略を策定した。
事業の目的	様々な立場の人々がお互いに協力し合って、地域固有の生物多様性を守ると共に、農業、商業、観光、交通など自然や文化等の地域特性を活かした地域の活性化につながる活動を実践し、文化財保護、自然や景観、環境の保全など飛鳥地域の豊かな生物多様性の保全再生活動を推進することを目的とする。		

妥当性評価

市の関与の必要性を評価してください

なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業
		2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）
	説明	平成24年9月に、自然と調和の取れた恵み豊かな環境を確保し、生物の多様性を損なうことなく、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会が構築されることを基本理念とした環境基本条例を制定。平成25年3月に環境総合計画を策定し豊かな歴史文化と自然環境を守り育てるまちを基本目標としているため.
やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい　2 やや大きい　3 克服できる範囲内　4 ほとんど無い
	説明	生物多様性を損なうことで、恵み豊かな環境は破壊され、地球温暖化の二の舞になりかねない。また地域の人口減少も歯止めがかからず、限界集落を助長することになる。

DO 実施

指標の推移	名称及び単位等	27年度	28年度		29年度（総計目標）	30年度	31年度
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	―	0	0	0	0	0	0
活動指標①	生物多様性啓発回数	1	3	6	5	7	9
活動指標②	―	0	0	0	0	0	0

コストの推移（単位：千円）			27年度	28年度		29年度	30年度	31年度
	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
	歳出（直接事業費）（a）		1,836	1,926	1,862	7,002		
	歳入（b）	受益者負担額	0	0	0	0		
		受益者負担額以外の歳入（補助金等）	0	0	0	0		
	（a）－（b）＝一般財源		1,836	1,926	1,862	7,002		
	正職員	従事者数（単位：人）	1.10	1.10	2.15	2.10		
		人件費（c）	6,383	6,278	12,270	11,985		
	トータルコスト（a）＋（c）		8,219	8,204	14,132	18,987		
	単位当たりコスト	計算式等（トータルコスト）／（活動指標①）	8,219	2,735	2,355	3,797		

備考	

CHECK 評価	有効性評価 現時点での有効性を評価してください	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
			説明	地域資源を活用した産業の活性化、都市部と農村部との交流、地域資源の再認識によるコミュニティの再構築が期待出来る。飛鳥地域の豊富な歴史的文化遺産を背景として、豊かな自然環境を認識し、地域が抱える課題を乗り越え、地域の活性化を図ることが出来る。					
		上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
			説明	橿原市環境基本条例に基づく橿原市環境総合計画　基本目標2（豊かな歴史文化と自然環境を守り育てるまち）の下位計画として位置づけることが出来る。横断的な計画であることから、市及び周辺地域の農業・商業、教育、環境、文化財、自然、景観、観光、交通の施策へも貢献が出来る。					
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない		
			説明	事業によっては手法を見直すことにより、事業の進捗度を推し進めることができ、さらに事業が向上する余地はある					
ACTION 修正行動	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		生物多様性飛鳥地域戦略を推進することにより、生物多様性を基礎とする地域固有の美しい風景やそれに基づく豊かな文化を再発見することで、地域への誇りや愛着の感情を引き起こし、人を引きつけ、地域の活力の発展につながる。例えば、自然環境を歴史・文化とともに守り活かすエコツーリズム、地場産業や地元企業のブランド力の向上など、関連を見いだし地域活性化につなげることが期待できる。					
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度	C	
				4 廃止又は休止する	5 完了する				
			説明	地域における多様な主体が有機的に連携して行う生物多様性の保全のための活動の実行計画である「地域連携保全活動計画」を地域戦略とあわせて作成し、保全活動の促進に寄与する活動を推進する。					